

修士論文審査手続要領

3. 修士論文および修士論文概要原稿の提出

(1) 修士論文（本論文）の提出

審査稿に審査過程での補訂を加えて、提出用の修士論文（本論文）を「修士論文の作成要領」によって作成し、1部を学位授与式の2日前までに指導教授を経て教務課に提出する。

★論文題目、著者（専攻、番号、氏名）、指導教授（資格、氏名）を楷書体で明記する。

(2) 修士論文概要原稿の提出

修士論文の概要は「日本工業大学研究報告」に収録することが義務づけられている。次頁以降の「修士論文概要（原稿）の作成要領」によって作成し、修士論文（本論文）に添えて、学位授与式の2日前までに指導教授を経て教務課に提出する。

修士論文の作成要領

修士論文の作成に当たって、注意事項を記しておく。精読して十分な準備を整えてから執筆に着手すること。

1. 準備

1・1 修士論文の目次案をつくる

修士論文研究の過程・成果をどのような構成によって書き表わすかということは大変重要なことである。その構成は論文の目次案をつくり、検討することによってかなり精練できる。論文を書く前に、目次案について、指導教授の指導を仰ぐことが必要である。

新刊図書の広告に、往々目次案の案内がされる。それは目次案のみによってもかなり全体が分かるためである。

書く立場についていえば、表現の構成としての目次案をどのように作るかによって、情報の受け手である読む側の人々に与える意味内容が変わるということである。

1・2 所属学会の論文執筆要綱を取寄せること

修士論文の執筆要綱としては特に細部にわたるとりきめをしていない。概ね各自が所属する学会の執筆要綱によって書くことにする。学会の講演予稿とは別に、本誌、論文集に掲載する論文について執筆要綱を定めてある学会が多い。小冊子にまとめられていることが一般であるので、購入して精読することが必要である。併せて、既刊の論文集の論文を座右において参考とすること。

2. 論文の書き方

先に述べたように、各自の所属学会の執筆要綱に準拠して論文を書かなくてはならない。ここに、基本的な注意を記しておく。

2・1 ポイントシステム

論文の構成は、章、節、項のように構成する。すなわち、例示すると

第3章 システムの構成		3. システムの構成
第1節 構成要素		3・1 構成要素
第1項 動力源	ポイントシステム	3・1・1 動力源
・	⇒	・
・	表記	・
・		・

ポイントシステムによる表記は3桁位（項まで）に留め、3・1・1・1のようにそれ以上は繁雑を伴うので使用しない。例えば、

3・1・1
1)
i)

のように見易い形をとることがよい。

2・2 文章を書くに当たっての注意

1) 論文は、口語文、「・・・である。」論とする。

(不可例)

「・・・実験結果は理論的とよく一致し、実用に十分供しうることが確認されました。」

(妥当例)

「・・・実験結果は理論的とよく一致し、実用に十分供しうることが確認された。」

2) 「主語」の確認をすること。

日常慣用の日本語では「主語」を欠いた構文が多く使われている。工学技術に関する記述では、この「主語」の欠落は意味不明を招くことがある。

3) 「助詞」を正しく使うこと。

日本語を学ぶ外国人にとって「助詞」は難物であるという。それほどに日本語にとって「助詞」は大切なので、正しく使うことが必要である。

4) 文章は短く作ること。

日本語には「関係代名詞」に類するものがないので、長い文章は書けないはずだ。短い、簡潔な文章を書くより仕方がない。

5) 自分は一人称でなく「著者」として三人称を使うこと。

「私は・・・考える」と自己主張をしたい場合でも「著者は・・・考える」と三人称で書く。(I wish・・・でなくThe author wishes・・・とする。)

甚だ不本意に思われることもあろうが、スコラ哲学の客観性尊重の名残りは、今日も慣例として生きている。

6) 誤字に気を付けること。

漢字は「音表文字」ではなく、本来「意表文字」である。特にワープロの辞書を使用する場合、音表入力に対する意表漢字の選択に注意が必要である。

2・3 謝辞、参考文献を忘れずに書くこと

1) 謝 辞

論文は貴兄の所産であるが、研究の過程では想外に多くの方々への指導、助言をえている。また後輩の協力なしには果たしえなかったことも少なくない。礼儀としてすべての方々へ謝辞を書いて論文をしめくくる。通常、「あとがき」(結言)の終わりに謝辞を付ける。

2) 参考文献

論文をまとめるに当たって、果たして貴兄独自の所産がどれ程あるかを考えてみることもよいだろう。歴史的な所産から、最近の研究論文まで、実に多くの「遺産相続」の上に貴兄の研究が成り立っていることに気付くと思う。先賢、先学に対する礼儀として参考文献を必ず書くことを忘れてはならない。とはいえ、Newton, Ohm や Maxwell の昔からというのではない。貴兄が参考とした文献に限定してよい。

参考文献を抄録する意味の一つとして、論文を読む人々への便益がある。研究過程で、「文献の孫引き」の経験をもつであろう諸兄には、よく理解できよう。

(注意)

論文末に付ける参考文献(リスト)だけでは十分ではない。知的(情報の)盗人にならぬために、本文に、引用、参照箇所にも記しておく。参考にした程度であれば「脚注引用」でよいが、工学技術における考え方(方法)に関する引用は極めて重要な引用であって本文中に断わる「本文引用」が必要である。

3. その他の注意事項

修士論文は諸兄が、今日研究といえる水準で、大部にまとめあげる初めての(多分)労作である。自分自身の歴史的所産、足跡として「最善」でありたい。また、仕上がった論文は十分美しくありたい。美しくあるための How to を抄録しておく。

1) 見出しは1頁の下半分に来ないようにすること。

1頁の下2～3桁の所に、3・2・・・のように節見出しを設けることは止める。項見出し(3・2・2のように)も1頁の下半分にはおかぬことがよい。

なお、節見出しは常に新しい頁の頭に来ることがよい。

2) 本文の文字と図の記入文字は同じ大きさで書く。

図は別紙に書いて本文中に張込むことが少なくない。別書の図を縮尺コピーして張込む類の操作も必要になろう。図中の記入文字の大きさの不統一は大変に見苦しいものである。

3) 文字の大きさのヴァリエーション、太字体の併用等も見やすさを援ける。

市販の工学技術書を参照すれば明らかなように、文字の大きさ、字体の変化および空間の巧用によって美しくまとめられている。修士論文は「著書」として美しく作成したいものである。既刊図書の美化技巧は取り入れてよい。

[備考]

修士論文の作成過程で、後進に手伝わせることは大変によいことであると思う。美しく修士論文を仕上げる技は、手伝うという作業の中で伝習され、改良されていく。

4. 論文の綴じ方

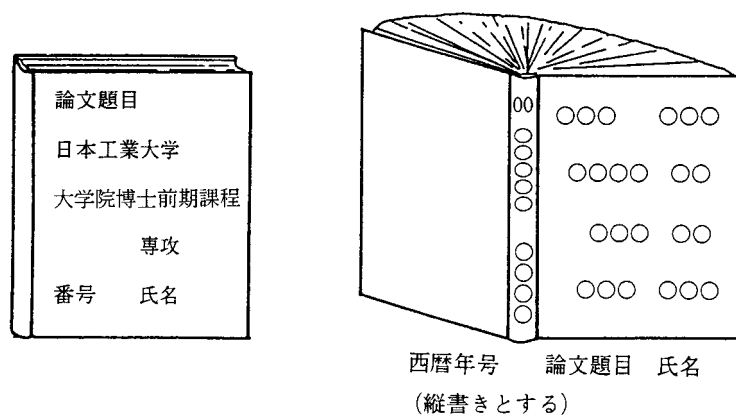
1) 論文用紙およびそれを綴じるためのファイルは次に記載のものを使用すること。

(いずれも日工大サービスセンターに用意されている。)

表紙：キングZファイルA4	機械工学専攻	赤
	電気工学専攻	黄
	建築学専攻	緑
	システム工学専攻	青
	情報工学専攻	グレー

資料等2部構成可

用紙：トチマン 厚口 アイ 5mm目 JIS A4



2) 学位請求論文は仮綴じとする。

3) ファイルの表表紙に論文題目・専攻・学籍番号・氏名を記入すること。

4) 同背表紙に修了年度(西暦)・論文題目・氏名を記入すること。

5) 3)・4)については、必ずしも直接記入せずとも、紙に書いたものをはがれないよう貼付してもよい。

修士論文（概要）作成要領

修士論文（概要）は、修士論文の審査が修了し論文が完備した時点で、「日本工業大学研究報告」に収録し、公にしなければならぬ。その概要をつぎに記載する要領でまとめ、学位授与日の2日前までに、教務課まで提出するものとする。

原稿調整の要領

1. 原稿は、図・表とともにA4サイズで作成する。
原稿は、そのまま校正は行わない。
2. 原稿は4ページ（電気工学専攻は2ページ）の分量とする。既刊の研究報告を参照し、図・表の大きさ等を調整する。
3. 原稿の書き方
 - 3-1. 要旨は和文・英文とも必要としない。
 - 3-2. 本文
原稿は、**字数・行数（25字×45行×2段）**とする。
 - 3-3. 数式
 - i) 数式はできるだけ簡潔にする。
 - ii) 文中に入る式は1行にまとめる工夫をする。
 - 3-4. 図・表
 - i) 図・表の題（Caption）および記入文字は原則として英文とする。図はFig. 1などとして図の下に、表はTable 1などとして表の上に題をつける。
 - ii) 本文中での図・表の引用はFig. 1、Table 1というように表記する。
4. 参考文献および注書
 - 4-1. 参考・引用文献および注書は、本文所要個所の右肩に¹⁾のように記し、文末に一括して記入する。
 - 4-2. 文献の表記法はそれぞれの所属学会の慣用による。
5. 謝辞、指導教授について
 - 5-1. 文末に謝辞を書く場合は、本学教員に対する謝辞は割愛する。
 - 5-2. 末尾に記す修士論文研究の指導教授の氏名は、原則として論文審査委員のみを書く。ただし、審査委員以外に特に論文作成過程で指導を仰いだ教員を併記してもよい。
例：指導教授〔資格〕〔氏名〕、（審査委員）〔資格〕〔氏名〕
 - 5-3. 前項の記載は本文の分量に含める。
6. 原稿等の提出について
 - 6-1. 提出書類
 - (1) 日本工業大学研究報告原稿申込書／受理票
 - (2) 原稿
 - (3) 宛名ラベル〔修論概要を掲載した「日本工業大学研究報告」を送付するため修了後の住所を記入すること〕

(注)

原稿とコピー1部を指導教授に提出のうえ、原稿申込書／受理票にサインをもらう。

原稿は、学位授与日の2日前までに、教務課まで提出する。

添付書類：原稿申込書／受理票
宛名ラベル